

# 希望の子

小林市立南小学校 校長通信

令和3年12月7日 第22号 (文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3520 E-mail: 1403eb@miyazaki-c.ed.jp

二年前の今頃は、「中国で

原因不明の肺炎が流行し始めたらしい」とのニュースが緊迫感もなく報道されていたわけですが、年が明けた一月十六日に初めて日本で確認され、二月には九州にまで拡大。その後、日本のみならず世界中を混乱させたウイルスに人間の知能を持って立ち向かうこと二年…。

子どもの頃見たヒーロー番組でも、やつつけたと思っただ後に向かってくる敵に嫌気がさしたものです。さて、歴史上まれに見る人類の強敵はこの後、どう動くのか。油断は禁物です。

今年は、少しは戦い方も分かります、子どもたちの活動にも広がりが見られました。新しい年に向けて、がまんした子どもたちには明るい希望と思い切り手足を伸ばして楽しむ時間を一刻も早くご褒美として与えたいものです。

## おひろひろのちやむの世界

前回の通信で、「制限など掛けたらタブレットの機能が生かされない。」との大学の先生の話を取り上げましたが、実は私も同じ意見です。もちろん子どもが取り扱いますから無制限というわけにはいかないでしょうが、子どもが調べたいときに調べ、記録したいときに記録、そしてそれらが個人の学びや友だちとの学び合いに結びつけば、長い間黒板とチョークで指導してきた学校の姿も時代に向かう方向へと変化していくでしょう。

とかくインターネット関連は教育界では心配のタネです。ゲームにはまり込む依存症や昼夜逆転による不登校や不適応、前回取り上げたSNSによるいじめなどなど…。しかし、まだことばも発しない幼い子がスマホの画面を人さし指でスライドさせる時代です。もう取り上げることは無理です。

私たち今の大人が最も自覚しておかなければならないことは、「今の子どもたちを取り巻く環境は、自分が子どもだった時代とは違う。」ということです。私のようなおじいちゃん世代はもちろん、お父さん、お母さんが子どもだった時代とも違っているのです。今から20年前でさえ、よく携帯電話にカメラの機能が付いた頃です。子どもの安全のためなら電話機能だけで済むし、街中なら公衆電話

がその機能を果たしていました。しかし今、そんなことを並べて「本当に子どもに必要なのか？」という立場で議論しても勝算はないでしょう。子どもたちは、私たちが経験していないとても魅力的な物を手にし、「現実」と「通信」の中の二つの世界に人間関係をもっています。だからこそ、新しい教育が必要なのです。

先日、小児精神科医の先生の講演を聞く機会があり、説得力のある話に理解はしたものの、同時に今の私には子どもたちを指導するのは無理だと自覚させられました。話では、「子どもたちはスマホ、ゲームを制限しようと近づいてくる大人は最初から拒否します。」「時間を決めるなどの約束事を決めても、大人が責任をもってそれを守らせることができなければ無駄です。…これでは手の打ちようがありません。しかし、子どもが大人を信用して自分の生活をコントロールする方向へ導くための方法も提案がありました。それは、「大人もその世界に興味をもって、できれば一緒にすること」だそうです。相手を制するにはまずは相手を知れと言うことですね。子どものもう一つの世界を知るために、私たち大人がまずは学習しましょう。

## ぜひ講演会へ

既に御案内しておりますが、12月15日(水)「スマホ時代の子どもたちのために」と題して、兵庫県立大学竹内和雄教授の講演会を開催します。なかなか身近に聞く機会のない講演会です。たくさんの申込をお待ちしております。

# 第19回「新聞感想文コンクール」佳作入賞

既に新聞にも掲載されましたが、今年の「新聞感想文コンクール」で本校の4年生 園田晴人さんが佳作に選ばれました。小中学校合わせて1192点の応募作品の中から、小中学校それぞれ6点しか入賞できない大変レベルの高いコンクールです。

「新聞」とのかかわりをわかりやすくまとめ、自分の考えをじょうずに整理して表現しているすばらしい作文です。

「社会や地域の出来事に関心があるか。」というのは、学校では「学びたい気持ち」を計る指標のひとつになっています。今回、新聞に目を向けた作文が入賞したことは、学校としても大変うれしいことです。

今回の入賞も南小学校みんなで喜び、みんなに広げていきたいと思います。



②、新聞との出会い  
小林市立南小学校 四年 園田 晴人

ぼくは新聞を読んでみようと思ったきっかけが二つあります。一つ目は、ぼくたち四年生は国語の時間に新聞について学び、実際に新聞を作りました。すると、書きたいことがたくさんあって、まとめるのがとてもおぼつかしかったのです。だから、ぼくは家で読む新聞はどんなふうにしてあるのだろうと思いい、読んでみたりしました。二つ目は、たんにんの先生が、ぼくたちによくニュースの話をしてくれて、ニュースや世の中の出来事にきょう味がわいてきたからです。

夏休み、ぼくは新聞を読みました。最初はともおぼつかしく、途中で読むのをやめて他のことをしたりしてしまいました。でもスポーツのページや本のしょうがいなど自分のきょう味があるところから読むと少しずつ

コタ 9-10 2020

読むことができるようになりました。読めない漢字や意味がわからない言葉もたくさんあったので辞典をひいたり、インターネットで調べたり、両親に聞いたりして読みました。新聞にはいろいろなことが書いてあり、だれかみても分かりやすいいろいろなじょうほうがかぎれいにまとまっています。例えば重たいことやみんなに伝えたいことは大きな字で書いてあったり、写真もありました。事実を分かりやすく正かくに伝えるために工夫を

あつてすごいなあと思いました。新聞は真実を伝えなければいけないので、明るいニュースだけではなく、悲しくつらいニュースの記事ものつています。最近では、新がたコロナウイルスや大雨など災害のニュースの記事をよく目にします。でもこれは明るいニュースやうれしいうれしい出来事たくさん新聞にのるようになります。ぼくはうれしいうれしいと思います。

今まで新聞は文字も多いし、なかなか読むうとは思わなかったけれど思ひまわって読んでみてよがったです。新しい発見ができました。見出しを読んだだけで、だいたい何の記事かわかるし、ニュースだけではなく、テレビ番組や地元宮崎のこと、天気・スポーツなどたくさんあるのじょうほうを知ることができて新聞はともおぼすすめです。いろいろなことを知ることもかぎれいにおもしろい新聞がぼくは好きになりました。ぼくはこれから新聞を見てたくさんのおもしろいことを学びたいです。そして明日はどんな内容が新聞にのっているかな。楽しみです。

コタ 9-10 2020